

山行報告書

受 付 No.	1 9 1	登山地・ルート	前穂高岳 北尾根
目 的	バリエーションルートから奥穂を目指す、積雪期の下見		
メンバー	L：大山、真理子		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
10・2・金	雨	浜松＝沢渡◎＝上高地B T～明神～徳沢～横尾～本谷橋～涸沢 8:32 9:24 10:30 11:43 13:14 15:30
10・3・土	曇/晴	涸沢～穂高岳山荘～奥穂～涸沢 10:27 12:52 13:32 15:37
10・4・日	晴	涸沢～5・6の科尔～前穂～岳沢ヒュッテ跡～上高地B T＝沢渡◎＝浜松 4:50 6:58 12:47 16:05 17:55

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【入山】沢渡Pから雨がぱらぱら。上高地からカッパを着て歩く。入山する人より下りてくる人の方が多く感じられた。涸沢が近づくにつれ雨は強まり、テント設営は強風と土砂降りの中。テントに入るも中はびっしょり…自分には久々の悪天、真理子さんには初の悪天とのことだった。

【涸沢～奥穂】2日目、起きても雨音。起床時間を遅らす。7時半に起きて朝食、雨は止んだものの、外はガスで真っ白。9時の気象通報を聞いて、涸沢を出たのが10時半近く。最初はガスっていたのが、登って行くうちにみるみる晴れて快晴となった。早く下りてテントを乾かしたいと思ったが、コースタイムを確認せず甘く見ていたため、涸沢に戻る頃にはテント場は日陰になってしまった。明神に行ったはずのさち子さん&伊藤さんチームとテント場で遭遇。

【涸沢～前穂北尾根～前穂】3日目、暗いうちから行動を開始するが、既に涸沢では大勢動き出していたが、5・6の科尔へと登って行くのは自分たちだけだった。しかし、明るくなると先行者の足跡が確認できた。5・6の科尔へ登る途中で落石を警戒してヘルメットを着ける。5・6の科尔は風が通って寒いが、奥又側に少し下りると日当たりがよく暖かい。5・6の科尔からは岩稜帯を登っていく。奥又側はザレて落石を起こしやすく、涸沢側は岩をよじ登って行く感じ。4峰は以前来たときは奥又側のザレた斜面を巻いたが、今回は足場のしっかりした涸沢側を進み、M野さんが登ったという上部の岩場を左から巻いて4峰のピークに出た。3峰の岩場を先行チームが登っているのが見えた。科尔に下り、ガイドに書いてある取付の岩を探すがよく分らず、とりあえず正面から3峰に取り付く。1段上がったところでロープを出して残置支点に導かれるままに登っていく。全部で3ピッチロープを出して3峰のピーク下でロープを回収。突風ともいえる風が時折吹きつけ、ぼんやり立っていると倒されそうになる。2峰の下りは荷物も重いスクライムダウンはせずに残置支点を使って懸垂下降。ひと登りで前穂のピークに出る。

【前穂～上高地】重太郎新道は、1度下ったことがあることもあり、いい加減な記憶でコースタイムなども下調べなしで行ってしまったが、かなり下まで慎重に緊張感のある下りとなった。思ったよりもずっと時間がかかり、最終バスは半分諦めていたが、ぎりぎり間に合った。

【目的の成否】積雪期に登ることを目指していたが、岩場では手袋を外す場面が数回あり、技術の未熟さを痛感。花村さんからもらった、雪が付いてから行ったほうがいいというアドバイスを踏まえ、日程の再検討をしていつか挑戦したい。

紙面不足の場合は裏面へ

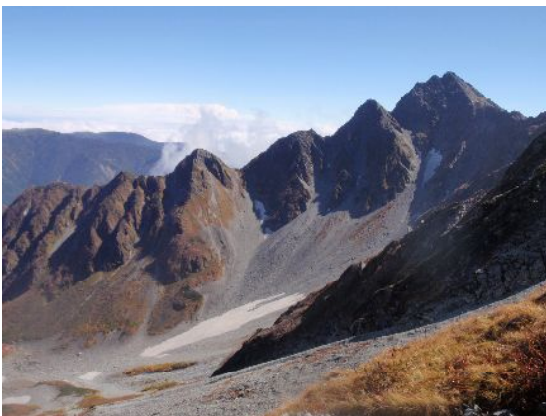
報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



ナナカマドと常念岳



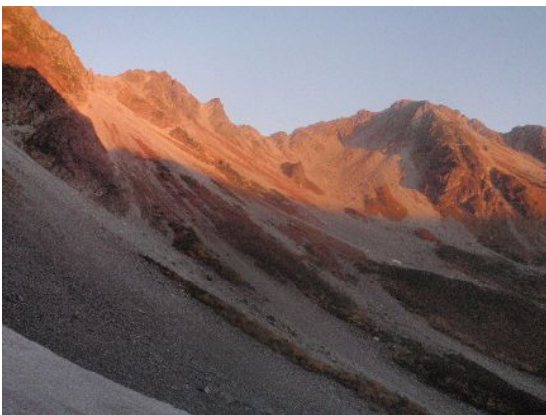
槍ヶ岳をバックに四峰を登る



前穂北尾根



三峰



朝焼け



二峰はクライムダウンせずに懸垂する